

## 「住民と震災復興計画策定委員会との懇談会」開催概要

区 分	第 1 回	第 2 回 (対象:女性・若者)
日 時	平成 24 年 5 月 9 日 (水) 19:00~21:15	平成 24 年 5 月 13 日 (日) 13:30~15:45
場 所	かたくりホール	役場 大会議室
参加人数	24 名 (男性 22 名・女性 2 名)	13 名 (男性 4 名・女性 9 名)

◆意見交換に先立ち、震災復興計画策定委員会（「以下「策定委員会」という。」木村和弘委員長から、これまで策定委員会で検討してきた復興計画（案）の概要等を説明していただきました。

### 【復興計画（案）の概要】

#### 計画の位置付け

「復興計画」は、震災によって達成が困難となった「総合振興計画」（平成 22 年度～平成 31 年度）に代わり、平成 24 年から平成 28 年度までの 5 年間の村の方向性を決める計画です。

復旧・復興事業は、それぞれ単発的に導入するのではなく、「復興計画」の目標・方向性に沿って、総合的な検討を踏まえて、導入することが大事です。

#### 被害状況の把握

被害の実態把握は復旧・復興の原点と考え、「復興計画」策定には被害状況等を正確に把握することが必要です。

そのためには、被害状況等を図面化することにより、「目に見える被害」だけでなく、時間の経過によって生じる被害や複合的な被害など、今まで把握されてこなかった「目に見えない（見えにくい）被害」を明らかにし、それをもとに「復興計画」を策定していきます。

また、1月に実施した「意向調査」の結果から、「震災により困っていること」を詳細に分析・検討し、集落ごとの問題や隠れて見えなかった被害の存在を明らかにしてきました。

#### 復興の目標と基本的な方向性

復興のための「基本目標」の達成に向けて、「三つの前提」「三つの基本方針」を決めました。「前提」と「基本方針」はそれぞれ別個のものではなく、相互に関連付けられて行われます。

「前提」を検討するために、基本的・基礎的資料の収集、各種調査事業を実施することにしました。

「基本方針」は、被害状況や意向調査の結果を踏まえて、内容を検討しました。

## 【基本目標】

「震災をのりこえ、集落に子どもの元気な声が響く村を」

## 【三つの前提】

- 前提1 「安全環境の確保」
- 前提2 「地域資源の積極的な活用」
- 前提3 「集落ごとの特色ある復興」

## 【三つの基本方針】

- 基本方針1 「暮らしの拠点・集落の復興・再生」
- 基本方針2 「農業を軸に資源を活かした新たな産業振興」
- 基本方針3 「災害に強い道路ネットワークの構築」

◆意見交換では、参加いただいた村民の皆さんから復興に関する貴重なご意見・要望等が出されました。

## 【主なご意見等】

### 第1回

- ▼住宅再建のために、役場に手続きに行くと各部署をたらい回しになることが多いので、1箇所ですべての手続きが行えるようにしてもらいたい。
- ▼融雪溝の設置など、震災を機に雪対策についても復興計画に盛り込んでもらいたい。
- ▼高齢化によりどこの集落でも水路の維持管理が困難になってきているので、今後の対策を検討してもらいたい。
- ▼復興計画（案）の基本方針にも「災害に強い道路ネットワークの構築」とあったが、震災で孤立しない道路整備が必要である。
- ▼今後、高齢化により山間地から中心部に移住を希望する人も出てくることも考えられるので、公営住宅の長期的な整備も検討してもらいたい。
- ▼栄村は雪が降るから大変であるが、その他は問題がなく、本当に住みやすいところなので、この雪を資源として活用する方法を検討してもらいたい。

### 第2回

- ▼復興には道路などのインフラ整備だけではなく、村民一人ひとりがやる気になる仕組みづくりが必要ではないか。  
そのためのキーワードは「教育」である。子どもたちが成長して、「村に暮らしたい」「村

- を何とかしたい」など、小さいときから村との絆づくりが必要である。
- ▼これから栄村を担っていく子どもたちの意見を復興計画に取り入れるべきである。
  - ▼栄村は雪が降った時のイメージを良くしないと、嫁に来てくれる人もいないのではないかと。
  - ▼村内で働いているが、住宅がなく村に住めない者もいる。
  - ▼復興計画を実行していく際は、役場だけではなく、集落毎に特徴を活かした活動に対して支援してはどうか。
  - ▼新規就農者など、新しい人を受け入れる体制が必要である。
  - ▼冬期間は農業だけでなく、商業もお客が少なく、厳しい状況にあるので、雪を活用したイベントなど、冬期間に人が来てくれるような対策を検討してもらいたい。
  - ▼公園の整備など、次世代を担っていく子どもや若者のための対策にも重点を置いてもらいたい。
  - ▼他の地域より優れている栄村の魅力をブランド化することも必要である。